

2月3日（火）東近江市教育委員会を訪問しました！

対談テーマ

部活動地域連携について

東近江市教育委員会においては、学校部活動が子どもたちの心身の成長と豊かな人間性の形成を図る上で大変有効な教育活動であることを踏まえ、地域や中学校の保護者に部活動指導員を募集したり、中学生を募集対象にしているスポーツ少年団を紹介したりするなど、指導者や生徒の活動の場の確保を地道に行われる取組をお聞きし、今後の部活動地域連携について考える。

訪問した教育委員

土井 真一 委員 野村 早苗 委員 塚本 晃弘 委員

東近江市教育委員会について

東近江市では学校教育課、生涯学習課、スポーツ課の3課が協力し、子どもの健やかな成長やスポーツ文化に親しむ学びを最優先に考えて部活動の地域連携を進めておられます。



意見交換より

委員：部活動指導員の募集の面接は学校単位で行われているのですか。

市教委：面接は市教委で行っています。応募された方の指導可能な部活動を学校に案内し、希望されたら面接に進むことになります。

委員：スポーツ少年団では、小学校と中学校の子たちが一緒に活動しているのですか。

市教委：種目によります。野球、サッカー、バレーボールなどはボールのサイズが変わるのでほとんど別々で練習しますが、ソフトテニスや剣道、柔道は一緒に練習しています。

委員：びわこ学院大学とは連携協定を結ばれているのか、また学生は部活動指導することで単位取得につながっているのですか。

市教委：東近江市と大学とは協定を結んでいます。今回紹介したあかねスポーツクラブでの指導がゆくゆくは単位取得につながるよう大学と市で考えていきます。

委員：外部指導者が学校に入ることに對して学校側の抵抗はなかったですか。

市教委：部活動指導員への研修を行った上で、現場へ指導の様子を見に行き、教員の話の聞くと、大変助かっていると高評価です。

委員：アンケートの兼職兼業で指導員として関わることに對して30%が悩み、58%が関わるつもりはないと回答。どのような理由からですか。

市教委：平日の部活動とは別に地域移行で生まれた地域クラブの活動には積極的にはなれないという回答だと認識しております。

委員：地域移行が進む地域と地域連携で進める地域では、今後先生方の負担が変わると思いますが、問題はないとお考えですか。

市教委：ある都市部が完全移行を打ち出されましたが、都市部と地方では現状が異なる。東近江市では学校教育課で部活動を進め、スポーツ課を中心に地域のスポーツ環境を整えて、何とか持続できるようにしたい。